

令和6年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業  
 (Ⅱ 外国人の子供の就学促進事業)  
 事業内容報告書の概要

都道府県・市区町村・協議会名【可児市】

令和6年度に実施した取組の内容及び成果と課題

**1. 事業の実施体制**

事業統括コーディネーター 1名  
 事務局担当 1名(指導者も兼ねる)  
 教室コーディネーター 1名  
 指導者 7名  
 教育相談 2名

**2. 具体の取組内容 ※取り組んだ実施事項①～⑥について、それぞれ記入すること**

②学校外における、不就学等の外国人の子供に対する日本語、教科若しくは母語支援又は学習習慣の確保に係る指導のための教室の開設

委託先:NPO 法人可児市国際交流協会

場所:可児市総合会館 (可児市広見1-5) 及び可児市多文化共生センター フレビア(可児市下恵土1185-7)

指導者:統括コーディネーター1人、教室コーディネーター(指導者も兼ねる)1人、日本語及び教科指導者11人

時間:毎週月曜日・火曜日・木曜日・金曜日 10:00～16:00

参加人数:15人(うち6人は退室)

内容:義務教育年齢を超えた子どもの高校進学を支援

・日本語初期指導:ひらがな・カタカナの読み書き、日本語学習教材を活用した日本語での会話、文法、読解、聴解などの学習指導

・教科指導:レベルに応じて、国語、漢字、数学の学習指導。入試前3ヶ月は受験対策として英語、理科、社会、及び面接、作文を指導

・進路ガイダンス:県教育委員会の進学ガイダンスに参加(7/10, 7/11, 7/14)

・学校見学・説明会:加茂高校、加茂高校定時制、八百津高校、東濃高校、加茂農林高校、東農実業高校、華陽フロンティア高校通信制

・保護者面談:入室面談、進路面談などで2回以上

・その他:

4/8 開講式、顔合わせレクリエーション

5/24 社会見学(犬山城)

6/17 進路学習会

6/20 定期試験

7/5 七夕行事

7/16 スポーツレク(広見地区センター)

7/22 ワークショップ(アバターマッピング)

8/8 性教育ワークショップ

8/22 ワークショップ(時計づくり) ※NPO 法人 NICE、シチズン時計株

8/23 交流授業 ※NPO 法人 NICE、シチズン時計株

8/26,27 共愛学園前橋国際大学交流会(総合会館/フレビア/マーノ)

9/12 定期試験

10/12,13 にじいろキャンプ(福井県/三方青年の家) ※参加希望者のみ

- 10/29 スポーツレク(広見地区センター)
- 11/19 社会見学(名古屋市科学館)
- 12/19 定期試験
- 12/20 大掃除、お楽しみレクリエーション
- 1/28 模擬試験
- 3/11 修了式

・受験日:3/5、3/27(岐阜県立高校)

#### ④不就学等の外国人の子供に係る地域社会との交流の促進

- ・開講式(4/8)
- ・社会見学(5/24 犬山城、11/19 名古屋市科学館)
- ・オープンキャンパス/学校説明会(東濃高校・加茂高校・加茂農林高校・東濃実業高校など)
- ・レクリエーション(4/8、7/16、10/29、12/20)
- ・ワークショップ(7/22 アバターマッピング、8/8 性教育、8/22 時計作り)
- ・共愛学園前橋国際大学交流会(8/26,27)
- ・にじいろキャンプ(10/12,13 福井県/三方青年の家) ※参加希望者のみ
- ・多文化共生フェスティバルボランティア(11/24)※参加希望者のみ
- ・修了式(3/11)

3. 成果と課題 ※取り組んだ実施事項①～⑥について、それぞれ記入すること

#### ②学校外における、学齢超過の外国人の子供の高校進学のための日本語指導、教科指導、生活指導や受験に関わる支援のための教室の開設

##### 【成果】

- ・義務教育年齢を超えて入国し、日本語を学び高校進学を目指す子どもたち、及び 日本の中学校に通う期間が短く、もう少し日本語を学び高校を目指したい子どもたちの学習機会、仲間との関わりの場となり、子どもたちの未来につながる支援ができた。
- ・会話力を重視する教材の導入により、日本語でコミュニケーションする力と意識を向上させることができた。
- ・オープンキャンパスや学校説明会などに積極的に参加することで、高校の場所や通学方法や特色などを理解することができ、自分の意思で進学先を決定することができた。
- ・大学生や社会人との交流の中で、コミュニケーションの大切さを学び、学習意欲を向上させることができた。
- ・レクリエーションやスポーツイベント、ワークショップなどを行うことで、生徒間の横のつながりを形成するとともに、学習に対するモチベーション維持に繋げることができた。
- ・生徒との面談を増やし、生徒の悩みや希望に寄り添いながら、生活や進路に関する問題と一緒に考えることができた。
- ・月1回のミーティングで学習教材や指導方法、各種イベントの検討のほか、子どもたちの情報を共有することにより、子どもたちが楽しんで教室に通う環境をつくり出すことができた。

##### 【本取組を行ったところ判明した課題】

- ・入国してから1年足らずで受験に臨む子どもは少なくない。短い期間で支援できることは限られてくるため、まずはコミュニケーション能力(話す力/聞く力)を向上させることを重視しているが、高校での学習を考えると、語彙力が乏しく、読解や作文の力も弱い。
- ・来日するまでの環境や教育が日本とは異なるため当然ではあるが、日本人とは重要度や優先度が異なる部分がある。そのため、時間を守る、遅刻や欠席する場合に連絡するなどの意識が低い。

#### ④不就学等の外国人の子供に係る地域社会との交流の促進

- ・オープンキャンパスや学校説明会など多くの高校を見学することで、自分の進路について深く考えて目指す高校を選ぶことができた。

**【成果】**

- ・大学生や社会人との交流の中で、コミュニケーションの大切さを学び、学習意欲を向上させることができた。
- ・キャンプのキャリア教育の中で、自分に近い境遇の高校生、大学生、社会人の話を聞き、将来について前向きに考えることができた。
- ・レクリエーションやスポーツイベント、ワークショップなどの活動を通じて、一緒に学ぶ同級生たちの新たな一面を発見し、絆を深めることができた。

**【本取組を行ったところ判明した課題】**

- ・自分の将来に希望を持ち、自分がやりたいことのために何をすべきか、少しでも具体的に考えられるようにして、モチベーションの維持、向上につなげていくことが重要となる。
- ・今年度も大学生や社会人との交流が行えて良かった。

	3～6歳	7～12歳	13～15歳	16～18歳以上 (過年齢)
本事業で対応した子供の数	人	人	人	15人

## 4. その他(今後の取組等)

※ 枠は適宜広げること。(複数ページになつても差し支えない。) 成果物等があれば別途提出すること。

※ 事業内容報告書の概要は、担当者・連絡先欄を除き文部科学省ホームページで公開する。